

事業所保存・閲覧用

(評価者の個人名は非公表とされており、保護者様・来訪者様等の閲覧用には、こちらの副本をご使用くださいますようお願いいたします)

東京都福祉サービス第三者評価(2022年度) 評価結果報告書

2023年3月17日

社会福祉法人バオバブ保育の会 御中
バオバブちいさな家保育園

〒 160-0023

所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081

電話番号 03-6279-0331

代表者氏名 理事長 中込 重秋

印

以下のとおり評価を行いましたので、東京都福祉サービス評価推進機構に報告いたします。

評価者 (評価者養成講習修了者番号及び担当分野)	修了者番号		担当分野	
	①	H1002063	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	②	H0702006	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	③	H0702077	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	④	H0902065	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 経営
	⑤	H1001023	<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
	⑥		<input type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 経営
福祉サービス種別	認可保育所			
評価対象事業所名称	バオバブちいさな家保育園			
事業所連絡先	〒	206-0002		
	所在地	東京都多摩市一ノ宮3丁目9番地1		
	TEL	042-375-4701		
事業所代表者氏名	高橋 明美			
契約日	2022年	8月	1日	
利用者調査票配布日(実施日)	2022年	10月	17日	
利用者調査結果報告日	2022年	12月	14日	
自己評価の調査票配布日	2022年	9月	2日	
自己評価結果報告日	2022年	12月	14日	
訪問調査日	2022年	12月	21日	
評価合議日	2022年	12月	21日	
コメント (利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入)	・利用者調査は共通評価項目により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシを全対象者に配付し、必要に応じ提出期限を延長するなど、回答率向上にも努めた。 ・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がよりの確なものとなるよう配慮した。			

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもが安心して毎日過ごす中で心身ともに健やかに育っていく場となる ・保護者が安心して子どもを預けることができ、仕事と子育てを両立していける場となる ・子どもへの思いや子どもの姿を保護者と共有し、共に育てる関係となるよう努める ・職員同士が保育への思いや情報を共有し、協力して仕事を進め、保育者として共に育っていけるように努める ・園が持つ機能や設備を地域の子育て家庭にできるだけ開放し、地域の子育てに貢献できるように努める
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもの側、保護者の側に身をおいて考え、思いを汲み取り、添おうとする。保育の過程を振り返り、同僚とも話し合い、次はどうあったら良いかを構想しようとする。自らを磨き向上していこうとする。職員集団の一員として自らの位置を理解し、園全体の向上を目指そうとする。</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育園が子どもの幸せ、子どもの健やかな育ちを守る砦であること、一人一人がその砦を守る一員であるとの意識を明確に持って、その役割を果たして欲しい。その役割を果たすための組織的努力、個人的努力はどうあるべきかを常に考え、積極的に行動してほしい。</p>

調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯63(在籍児童数79)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

利用者総数	79
利用者家族総数(世帯)	63
共通評価項目による調査対象者数	63
共通評価項目による調査の有効回答者数	33
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	52.4

利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」75.8%・「満足」18.2%の計93.9%と高い値を得ており、設問別でも「発達に配慮した保育活動」「子どもの興味・関心の伸長」「食事」「保護者との信頼関係」など、全17問中15問で80%台～100%の高い支持を得ている。
 自由意見では「職員の方がいつも優しく対応してくれてこちらの気持ちもほぐれ、施設は小規模だが自然とふれ合える環境づくりがなされていてありがたい」「お迎えの時間なども融通が利いて親にとってはありがたく、自由な雰囲気子どもも楽しそうで、おやつも手作りであったり、野菜の生産者の顔が見えたりと食育にも働きかけてくれているところがよい」「保護者に優しく、どのような時でも味方でいてくれるという安心感があり、また子どもにもいえることなので安心感につながっており、職員同士が肯定的で信頼し合っているように見える」「子どもがしたいことを尊重してくれ、それに沿ってどうしたら実現できるか一緒に考え一緒に作り上げていて、完成したのを見てとても感心する」などの声が寄せられている。
 さらなる向上を望む意見としては、戸外活動や行事の充実、駐輪場の屋根の設置に関することが見られた。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	33	0	0	0
実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、有効回答者33人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は9件で、「子どもたちが主体の保育を心がけてくれ、先生方皆同じ姿勢で子どもを見てくれており、子どものよいところを伸ばし苦手なところもどうしたら本人が困らないかを保護者と一緒に考えてくれている」「四季折々の活動や集団生活ならではの遊び、また個人にも合わせた活動を日々選んでもらっていてありがたい」「子どもたち同士の関わりや保育士との関わりが、社会性につながっていると感じる」などがあつた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	33	0	0	0
有効回答者33人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は7件で、「子どもがやってみたい、作ってみたいと思うことを先生方が実現できるように工夫してくれるので、いろいろなことに興味や関心が深いと思う」「子ども中心に保育が組み立てられているように感じる」「遊びの中にいろいろな発見があるようだ」「親の私たちではさせてあげられないような体験をたくさんさせてもらっている」などが寄せられている。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	32	0	0	1
有効回答者32人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は10件で、「産地直送のおいしい野菜、目に見えるキッチンで作るご飯は本当においしいと思い、家では食べないものも食べられたりする」「園内で自分で育てたものを収穫するなど、子どもの食育に配慮されていると思う」「毎月のメニューを見るといろいろな種類のご飯で、栄養面もとても考えられていると感じる」「子どもの状況に合わせ、形状や食材について丁寧にこまめに確認してくれ、以前もいろいろと聞いてくれたようで、安心して子どもを預けられている」などがあつた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	30	2	0	1
「はい」が93.8%、「どちらともいえない」が6.3%となっている。 自由意見は9件で、「公園や散歩など、たくさん出かけている」「毎日のように庭や屋上、散歩も川や公園へ行っていてすごい体力作りで、週末はもの足りないようだ。皆で野菜を育ててそれを目の前で調理して食べるなど、いろいろな行事が日々あって楽しく過ごさせてもらっている」「コロナ禍の中で行事の実施に関して先生方が工夫してくれており、遠足では公共機関を利用することが再開された」などのほか、コロナ禍の影響による行事等の減少に言及する声が寄せられている。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	29	2	0	2
「はい」が93.8%、「どちらともいえない」が6.3%となっている。 自由意見は6件で、「いつも柔軟に対応してくれて感謝している」「快く引き受けてくれている」「何度かお願いしているが、毎回丁寧である」「出産・産後の際の時間変更を快く承諾してくれた」などが寄せられている。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	29	4	0	0
「はい」が87.9%、「どちらともいえない」が12.1%となっており、「はい」の値は前回(2019年度・以下同、66.7%)から改善されている。 自由意見は6件で、「柵や鍵など、安全に考慮してくれている」「セキュリティもしっかりしており、遊具等も定期的に点検(親も子も一緒にやるイベントもある)している」のほか、外部侵入対策や保育中の安全管理等について、気になる点や要望が挙げられている。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	30	2	1	0
「はい」が90.9%、「どちらともいえない」が6.1%、「いいえ」が3.0%となっている。 自由意見は6件で、「年度初めには年間予定表を出してくれるので、参加のための調整がしやすい」「前もって行事の日時を教えてくれているため参加しやすかった」「土曜日などに開催してくれている」「上の子のイベント等にも被らないように、小学校等の日にも把握されているようだ」のほか、行事の日程等における各家庭の就労等への配慮や、コロナ禍の影響に言及する声が寄せられている。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	32	0	0	1
有効回答者32人全員(100%)が「はい」と答えている。 自由意見は8件で、「常に相談させてもらっていて、先生というより本当に信頼できる家族のような先生ばかりだ」「いつでも快く話を聞いてくれ、その後はどうか？ などのアフターフォローもきめ細かく、感謝している」「在園時の上の子が卒園してからも当時の担任の先生が相談にのってくれることもあり、気軽に相談できる環境である」「気になったことはその時に伝えており、先生方も保護者の意見をできる限り尊重してくれている」などが寄せられている。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	31	2	0	0
「はい」が93.9%、「どちらともいえない」が6.1%となっている。 自由意見は3件で、「施設も新しく、掃除もされていてきれいだ」「泥だらけで遊んでいるのにいつも清潔である」のほか、トイレの使用時の衛生面に関する声があった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	32	1	0	0
「はい」が97.0%、「どちらともいえない」が3.0%となっており、「はい」の値は前回(85.4%)から改善傾向が見られる。 自由意見には「担任以外の職員の方も子どもの名前、親の顔を覚えてくれて、笑顔で接してくれている」「怒り方も怒鳴るなどはなく、『何でそうしたのかな？』と、そのできごとの前後を大切にしてくれている」の2件が寄せられている。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	31	0	2	0
「はい」が93.9%、「いいえ」が6.1%となっている。 自由意見は3件で、「様子をすぐに連絡してくれ、どのようにしたらいいかなどを話してくれており、毎月定期的に医師がきて相談もできる」「仕事のことを考慮してくれたり、体調不良の際は柔軟に対応してもらえる」のほか、ケガの把握や保護者への説明、体調不良時の保護者への連絡について、さらなる配慮を望む声があった。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	21	5	1	6
「はい」が77.8%、「どちらともいえない」が18.5%、「いいえ」が3.7%となっている。 自由意見は5件で、「どのように解決したのか、解決策等、連絡をくれる」「気になったことはその時に伝えており、先生方も保護者の意見をできる限り尊重してくれている」のほか、「経験がないので不明である」や、子ども同士のトラブルの把握や子ども一人ひとりへの配慮、子ども間のトラブル等発生時の保護者への情報提供などについて、さらなる配慮を望む声が見られる。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	32	1	0	0
「はい」が97.0%、「どちらともいえない」が3.0%となっている。 自由意見には「毎日、子どもの気持ちややりたいことを大切にしてくれている」「感情を受け止めて対応してくれていると感じる」「丁寧に寄り添って、場合によっては個別に対応もしてくれている」の3件が寄せられている。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	29	3	0	1
「はい」が90.6%、「どちらともいえない」が9.4%となっている。 自由意見には記入がなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	31	1	1	0
「はい」が93.9%、「どちらともいえない」が3.0%、「いいえ」が3.0%となっている。 自由意見には「毎日ノートに詳しく書いてくれるうえ、会った時にも話してくれる」の1件があった。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	29	3	0	1
「はい」が90.6%、「どちらともいえない」が9.4%となっており、「はい」の値は前回(77.8%)から改善されている。 自由意見には「不満に思ったことがない！」の1件が寄せられている。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	16	9	1	7
「はい」が61.5%、「どちらともいえない」が34.6%、「いいえ」が3.8%となっている。 自由意見には「まだそこまでのことが起きていないので相談したことがない」の1件があった。				

I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている <input type="radio"/>非該当
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている 評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している <input type="radio"/>非該当
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している 評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている <input type="radio"/>非該当
	カテゴリ1の講評	
	子どもの育ちに寄せる願いや家庭との協力を理念等に掲げ、保護者との共有に努めている 子どもたちが「自分をたいせつに思える人」「柔らかに開かれた心を持ち、様々な人と共に生きていける人」へと育てゆくことを願い、「保護者とともに子育てをすすめる」ことを、法人共通の保育の理念としている。これらの生涯を通じた「大きな目標」を柱に、卒園後の学童期・思春期も視野に入れながら、理念に連なる11の「保育の目標と基本方針」を踏まえて育ちを支えてゆくことを目指している。保護者にはこれらを見学・入園時の説明のほか、懇談会・面談や園便りなど、さまざまな機会と媒体を通じて発信し、協同と相互理解の実現に努めている。	
	法人の目指すものや園の方針を組織として共有し、チーム力の促進にも取り組んでいる 職員には入職時のオリエンテーションの際に、上述の法人の目指すものが伝えられ、その後の保育の実践と組織内の話し合いの積み重ねを通じ、理解や共感が深められている。年度当初の園内の会議では、園長が事業計画をもとに、年度の園の目標・方針を職員に発信し、その後の会議等の場でも、経営層が折々の園の方針を現場と共有している。各職員が持てる個性や特性を発揮しながら、互いにそれを受容し、支え合う組織文化を大切にし、子どもの人権に関する園内研修や新任・中堅層が関係をより深める機会も設けるなど、共通理解の促進にも注力している。	
	各種の検討・決定と関係者への周知の仕組みを整え、話し合いの場の充実にも努めている 園長・副園長及び各クラス代表・栄養士・看護師などによる運営会議と、常勤者が集う職員会議をそれぞれ毎月設けるほか、運営会議と同メンバーで毎日の昼のミーティングも行い、園全体の情報共有や種々の検討・決定は、主にこれらの場で行っている。職員会議では小集団での語らいの場を意識的に設け、若手・中堅層の積極的な発言を促すほか、「拡大ミーティング」と題した子どもや保育に関する話し合いの場も設けている。保護者には連絡通信アプリによる配信や書面の配付・掲示など、案件に応じた媒体・方法によって各種の重要な連絡事項を伝えている。	

カテゴリ-2		
2	事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行	
サブカテゴリ-1(2-1)		
	事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事業所の経営状況を把握・検討している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2(2-2)		
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー2の講評		
法人の長期的な方向性を念頭に、年度の事業計画に運営と実務の方針・取組を定めている 法人が2012年に策定した各5年・3期の15年計画に、経営や事業展開の方向性と課題を「大綱」として示し、入職者にもオリエンテーション時に説明するなど、法人全体で共有を図っている。組織運営・施設整備・財政・保育・地域福祉・研修などの各分野について、策定当時の現状認識に基づく課題・目標を定め、2019年に一部改定している。園の事業計画では同計画も念頭に、年度の園の課題・目標と、保育や保健・安全、食事・食育や保護者・地域支援、組織運営及び研修、環境整備などに関する取組・方針を定め、年度当初に職員に説明している。		
保護者や職員の意向を把握し、保育や行事などの日常の実務の各計画に反映させている 保育・行事や防災・保健などの実務について、年間計画と具体的な取組内容・ねらい等を定めた各計画を業務ごとに作成し、計画の期間や内容に応じた進捗確認を行いつつ実行している。これらの立案には、毎日の交流や定期・随時の面談、懇談会や「ワークショップ」などの交流行事、それらを含む行事後のアンケートや、定期的な第三者評価受審時の利用者調査などから把握した、保護者の意向も反映されている。また前述の職員参画の各会議では、これらの計画の検討や反省も随時行い、経営層との面談や業務内外の会話からも、職員の意向を把握している。		
地域の状況や行政・業界の動向、園の経営状況などの把握の仕組みも整えられている 入園前見学や親子サロン「びーだま」で来園する地域の未就園世帯の声や、桜が丘地域の保育・子育て機関が集う会議への参画を通じ、子育てや教育・保育等に関する地域の状況・ニーズを把握している。また市の私立保育所園長会や行政・関係団体の各種発信、法人内の会議などから、関連する制度・政策の動向などに関する情報を収集している。園の予算の作成やその執行状況、稼働率などの経営状況の管理は、業務委託先の会計事務所の支援のもとで経営層が行っている。これらの情報を、上記の保護者・職員の声とともに、事業計画立案などの参考としている。		

3 経営における社会的責任		
サブカテゴリ1(3-1)		
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している。	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ2(3-2)		
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー3(3-3)		
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー3の講評		
子どもの人権・人格の尊重をはじめ、職員に求める規範・倫理に関する啓発を行っている 職員には入職時に、「職員綱領」をはじめとする法人共通の規範をもとに、保護者との協同や子どもの人権・人格の尊重、地域の社会資源としての役割、職員集団としての協働と互いの尊重、子どもの身近なモデルたるべき自覚など、園・保育者が担う使命と責任が啓発されている。今年度は法人合同の研修でも外部の有識者を招き、人権に関する研鑽の場を設けており、園の准職員ともこれを共有すべく別に園内研修を行い、言語・非言語によらない丁寧な関わりによって相手と心を通わせ、理解し合う支援技術「ユマニチュード」とともに、園長から話をしている。		
園・家庭での虐待の防止や、保護者の意向への最善の対応のための仕組みを整えている 上記の園内研修では、保育士団体作成のチェックリストをもとに、各職員が日常の子どもへの関わりを振り返っており、同様の自己点検と話し合いを毎年度設け、いわゆる不適切保育の排除の徹底に努めている。また虐待等の防止に関する法人・市の各手引書を常備し、関係機関との連携の体制を整えるほか、今年度は5歳児向けに市が行う「児童虐待防止教育」の受講もなされている。苦情解決制度の整備と保護者への周知、玄関の「なんでもご意見箱」や毎日の交流を通じた保護者の意向の把握にも努め、寄せられた声には案件に応じた最善の対応を図っている。		
保育施設の社会的責任として、地域との積極的な交流や、子育て家庭の支援を行っている ホームページや多摩市の各種媒体、市内の各所で配布する広報紙「プレーメンの庭から」など、多様な方法で園の情報を発信するほか、保育実習生や職場体験生などの受け入れも積極的に行い、市の私立保育所園長会や地域内の子ども・子育て機関が集うネットワーク会議にも加わっている。地域の子育て家庭への支援として、一時保育や親子サロン「びーだま」、絵本・書籍の貸し出し、市や地域の公民館が行う子育て講座への講師派遣などを行っており、コロナ禍後の社会や地域の子育ての状況を踏まえた、支援のあり方の再構築にも取り組みたいと考えている。		

カテゴリー4		
4	リスクマネジメント	
サブカテゴリー1(4-1)		
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(4-2)		
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している	<input type="radio"/> 非該当
カテゴリー4の講評		
<p>組織内の「安全衛生委員会」を中心に、日常の各種重要リスクへの対策に取り組んでいる</p> <p>組織内の「安全衛生委員会」が行う毎月の会議を起点として、各クラスの事故・ヒヤリハットや、子どものアレルギー・既往などの保健に関する情報の共有と検討、防災・防犯訓練の振り返り、毎月行う園舎・園庭の安全点検の報告と要改善箇所の確認・検討などを行っている。子どものケガをはじめとする事故や、その要因となるヒヤリハットは、発生・把握後の状況の確認と原因・対策の検討を行い、直後の昼ミーティング等での報告によって再発防止と予防を図っている。また事例の内容や重要性に応じ、会議等でのより詳細な考察と改善策の検討も行っている。</p> <p>災害や不審者の発生に備え、訓練の実施や関連のマニュアルの整備などがなされている</p> <p>毎月の防災訓練では、登園後や日中・延長保育時などの各時間帯、水遊び・散歩時なども想定し、災害時の対応や保護者との連携を確認しており、不審者の侵入を想定した防犯訓練も毎年度実施している。また戸外での不審者発生時の対応を考慮し、保育者が携行する携帯端末を増設しており、実地や机上での訓練なども今後検討されたい。「危機管理マニュアル」に、災害時の初動対応などのほか、発災3日後までの運営再開に向けた流れが示されており、具体的な事業継続計画(BCP)としての整備・周知や、感染症等に関する同種の計画の検討が期待される。</p> <p>各種情報の適切な管理・利用と漏洩防止の徹底を図るべく、環境や仕組みを整備している</p> <p>法人の個人情報保護方針や関連の諸規程、職員の手引書「BBハンドブック」に、個人情報を含む各種情報の管理・利用や機密保持等に関する方針や実務上の諸注意を定め、職員には入職時など、実習生等には受け入れ時に啓発を行っている。また情報端末類や今年度導入の保育管理ソフトウェアには、ログイン制限や職位等に応じたアクセス権限を設け、重要書類を管理する各室は空室時の施錠や機械警備の設定を行っている。保護者が記入・提出する各書類には個人情報の利用目的を記載し、子どもの肖像の利用などについては、入園時に同意確認を行っている。</p>		

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる	○非該当
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている	○非該当
●あり ○なし	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している	○非該当
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している	○非該当
●あり ○なし	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている	○非該当
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金・昇進・昇格等)・称賛などを連動させている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている	○非該当

サブカテゴリー2(5-2)		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
組織力の向上に取り組んでいる		3/3
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している	○非該当
●あり ○なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている	○非該当
●あり ○なし	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評 必要な人材の確保とそれぞれの能力の活用、各種労務管理に関する仕組みを整備している 正職員の募集・採用は、法人が系列全園について、各種養成・採用機関との連携や法人サイト上での情報発信など、多様な媒体・方法により行い、准職員は各園が状況に応じて雇用している。配属・異動は各人の意向なども踏まえ、法人内の「企画調整会議」で検討され、園内の配置は保育の安定に配慮し、各クラスに継続担任者を置く原則とするほか、各人の経験・特性や期待する役割・成長などに、家庭や子育て等の状況なども加味し、職員会議での検討を経て決定している。就業状況の管理や休憩・休暇の確保など、労務管理面の仕組みの整備にも努めている。		
育成・研鑽の指標と緩やかな目標管理の仕組みを整備し、各職員の成長を支援している 法人共通の「職員としての育ち合い」ファンリテーションプログラム」に、初任者から管理者までの各階層に望まれる能力・資質と研鑽が一覧化され、別に国の処遇改善制度に対応する各職位区分と、それぞれに求める役割・能力が定められている。これらを職員の育成や自己研鑽の指針として、各人が「振り返りと学び」により、保育や子どもとの関わり、職員としての姿勢・態度、研修実績の振り返りと、当年度の重点目標や職場内外の研修受講及び自己研鑽の計画などを立案し、園長との面談でこれらを共有する、緩やかな目標管理の仕組みが運用されている。		
各種の研修や職員同士の話し合いが、園の保育の質や、組織の同僚性を高めている 各種の会議や中間・期末に行う振り返りでは、保育や子どもなどに関するエピソードと各人の内省をもとに、話し合いを通じた考察と相互の共感が深められている。また行政や各種団体が行う外部の研修や、法人の全体・階層別の研修も、各職員の専門性の向上に活かされており、会議や報告書・資料の供覧によって成果が共有されている。上述の育成・研鑽の指標は、見直しや個別の目標管理との関連を深めることにより、育成制度としての機能を高めることが検討課題となっており、各人との面談の周期を見直し、進捗確認を確実に工夫なども一考されたい。		

カテゴリー7	
7 事業所の重要課題に対する組織的な活動	
サブカテゴリー1(7-1)	
事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
<p>評価項目1</p> <p>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>	
前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
<p>昨年度はその前年度に続き、新型コロナウイルス感染症対策に注力しつつ、さまざまな制限や不安の中で試行錯誤を重ねた前年度の成果や反省も踏まえ、保育や行事、保護者との連携など、運営のあらゆる面で最善の取組を行う工夫に努めた。</p> <p>保育では日々の生活を大切に、各クラスで年間テーマを設け、それを踏まえた実践に取り組むとともに、中間・期末の振り返りではエピソードの共有や小グループでの話し合いを通じ、組織全体で子どもの育ちの姿への理解や職種間の連携を深めた。また周辺の公園や自然環境を活用し、感染リスクを抑えつつ子どもたちの豊かな体験の保障を図り、行事も同様に感染防止に配慮して規模や内容を見直しつつ、さまざまな経験や関わりを持てるようにした。</p> <p>また保護者との「共育」の面では、児童票を共有しながらの個人面談を継続するとともに、連絡通信アプリを活用し、クラス便り等の配信のほか、それまで「壁新聞」として玄関ホールに掲示していた日々の保育や子どもの様子の発信に加え、アプリでの毎日の「保育ドキュメンテーション」の配信を行うことで、お迎え時の園内の「密」を防ぎながら、保護者が家庭でも園の保育の取組や子どもたちの成長に触れられるようにした。</p>	
目標の設定と取り組み	<input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
取り組みの検証	<input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
検証結果の反映	<input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
<p>保育ドキュメンテーションの配信は保護者からも好評を得ており、10月末に幼児クラスで行った「からだ遊びdays」では、子どもたちが多摩川に出かけ、身体を動かして楽しみ、保護者も参加することで、保護者同士の貴重な親睦の機会となった。また5歳児クラスでは保育参加も設け、子どもたちが得意なことを一緒に楽しんでいる。</p> <p>さまざまな面で慣例にこだわらず、その時々内外の状況に応じた最善の対応に努めたことは、現状でできる子どもたちの体験の保障や、保護者との信頼関係の維持と向上につながったと考えている。今回の利用者調査でも、総合満足度はコロナ禍前の前回と同様の高い水準を維持し、戸外遊びや行事に関する質問(問4)でも、前回とほぼ同水準の支持を得ている。</p> <p>今年度も引き続き折々の状況を踏まえた工夫に努めるとともに、職員の研修参加を活性化させ、保育のさらなる充実につなげることも重点項目としている。コロナ禍以降のオンライン研修の普及により、准職員を含め、対面の研修には参加しづらい職員の受講も可能となっており、各人の積極的な受講や報告会などによる学びの共有に取り組むとともに、准職員向けの子どもの人権に関する園内研修も設けている。</p>	

評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

昨年度は東園舎で行う親子サロン「びーだま」や一時保育・定期利用保育を、感染対策を行いながら継続し、開園以来注力する地域の未就園家庭への支援や、地域に開かれた子育て家庭の交流と憩いの場としての機能を維持することにも取り組んだ。
その前年度は春の緊急事態宣言発出から9月中旬までと、年明けからの第2回の同宣言の際には、親子サロン等の実施を見合わせ、年間の半分以上の期間を休止とすることとなった。またそれ以外の実施中の期間も、感染症への不安などにも起因してか、利用者が激減した。一方で、地域内の同様の事業も軒並み休止を余儀なくされる中で、未就園の家庭が子どもの預け先や昼間の居場所、他の子育て家庭との交流の場を持ちづらくなっている様子もうかがわれた。
これらの状況や、感染症に対する行政の方針と社会の認識の変化も踏まえ、昨年度は年間を通じて一連の事業を継続し、地域の子育てを支える場としての機能の継続に努めた。

<p>目標の設定と取り組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った <input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった <input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった
<p>取り組みの検証</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った <input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む) <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である
<p>検証結果の反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた <input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない <input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

親子サロン・一時保育・定期利用保育とも、コロナ禍前と比較すると利用の実績は低くとどまったが、再開の際には来園した地域の保護者から感謝や安堵の声がさまざまに寄せられるなど、地域の子育てのよりどころとしての役割の発揮において、一定の成果につながっている。一時・定期利用保育も秋を迎える頃には定員に達するなど、ニーズの回復傾向も見られている。親子サロンは週4回・午前と午後の実施として、年間185回行い、延べ1,400世帯以上の来園を得た。また一時・定期利用保育は、1日あたり平均でそれぞれ4世帯が利用している。
今年度も取組を継続するとともに、事業計画では保育所体験や親子サロンを活用したコラボカフェなども、感染症の状況を見ながら無理のない範囲で実施することとしている。

II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ-6-1~3、6-5~6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ-1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している <input type="radio"/>非該当
	<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している <input type="radio"/>非該当
	サブカテゴリ-1の講評	
	<p>ホームページに園の概要を掲載し、写真やブログで園の様子を伝えている</p> <p>園のホームページには、所在地や連絡先といった施設概要のほか、クラス編成や年間行事予定、第三者評価の結果が掲載されており、「フォトギャラリー」として園の様子が紹介されている。また法人のホームページには、保育理念、「一人一人が園生活を無理なく楽しく送れるように」「戸外の陽の光を感じ、自然と友だちになれるように」「子どもたち一人一人が生活の主人公になれるように」などの、法人が心がけている保育の考え方が紹介されており、在宅においても園の様子を知ることができるようになっている。</p> <p>市の媒体での情報提供や地域子育て支援事業を通じて、園の様子を地域に発信している</p> <p>多摩市のホームページには保育所一覧が掲載されており、所在地と連絡先が記載されるほか、上記の園のサイトへのリンクが設定されている。また地域の子育て支援事業として、親子サロン「びーだま」を週4回開催し、さまざまなライフスタイルの親子が利用できるよう、午前・午後両方の時間帯を設定して行うとともに、一時保育や保育所体験も実施しており、これらも園を知ってもらう機会となっている。地域子育て支援の広報は、地域向けの子育て支援情報紙「プレーメンの庭から」を発行して行っており、公共施設に常置している。</p> <p>見学者を受け入れ、保育の特徴や環境構成の工夫などを説明している</p> <p>入園希望者に対する見学は、電話で予約を受け付け、感染対策を講じたうえで、1回3家庭を目安に受け入れている。時間帯は子どもたちの姿を見られるように、基本的には午前中を勧めており、保護者の都合がつかない場合には夕刻などの時間帯にも対応し、突然の来訪に対しても、体制が整い可能であれば案内している。案内は30分程度を目安に、保育の内容や環境構成の工夫のほか、食事・行事・卒園後のつながりなどを説明し、適宜質問や疑問に答えており、Q&Aや多様な写真などから園の方針や保育・環境等の特色を伝える補足資料も手渡している。</p>	

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	6 / 6
2 サービスの開始・終了時の対応			
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2の講評			
<p>入園説明会では「入園のしおり」を用いて園の重要事項を説明し、同意を確認している</p> <p>入園が内定した家庭には、個別に連絡して入園説明会の日程を伝え、面談の日程を決めるほか、郵送する各種書類（「入園のしおり」「保育予備調査票」「生活状況調査票」など）の通読と必要事項への記入を依頼している。入園説明会では、「入園のしおり（重要事項説明書）」を用いて、利用開始にあたっての重要事項について、園長・副園長・看護師がそれぞれ担当分野の説明を行っている。入園説明会とは別日程で個人面談を行い、終了後には重要事項説明書に関する説明や個人情報の取り扱いに関する同意について、署名にて確認している。</p> <p>面談や各種書類において、子どもと保護者の情報を把握・記録し、職員間で共有している</p> <p>入園前の個人面談では、保護者の就労や家庭の状況のほか、子どもの健康状況や生育歴・予防接種・既往症などの保健面の情報、成長・発達や生活リズムなど、保護者が記入した各種書類の内容を確認し、さらに詳細な情報を聴き取って記録している。食物アレルギーや保健面に不安がある場合には、適切な援助を行えるよう、専門職による面談も別途行っている。各種書類や面談での記録は、個人別のファイルに綴り、必要時に閲覧可能とするほか、アレルギー・保健の情報を中心に、年度開始前に全体で共有し、面談担当者や担任の間でも確認を行っている。</p> <p>利用の開始・終了時の子どもや保護者の負担と不安を軽減し、支援の継続にも努めている</p> <p>入園直後には在園時間を短時間から徐々に延ばし、子どもの負担と不安の軽減を図るほか、0歳児では初日は保護者も一緒に入ってもらう、関わる様子をその後の支援の参考とするともに、保護者も子どもの姿を見て安心できるようにしている。また保護者の不安にも配慮し、丁寧な対話を心がけるほか、開始日や受け入れ時間を調整したり、他の保護者に知り合いがいないなどの場合には、交流を持てるよう同じ時間帯に設定するなど、個々の状況に合わせた対応に努めている。利用の終了時には保護者の相談に応じるほか、卒園後にも再会の機会を設けている。</p>			

サブカテゴリ3		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
3	個別状況の記録と計画策定		
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		<input type="radio"/> 非該当

評価項目3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー3の講評		
子どもの成長・発達や家庭の状況を把握・記録し、援助の向上に活かしている 入園までの子どもの成育歴や健康・家庭状況等の情報は、児童票として個別に綴られている。日々の子どもの様子は、保育日誌に活動内容や子どもたちの姿等を記載するほか、家庭での様子は日々の保護者との対話や「子育てノート(連絡帳)」、個人面談などから把握している。面談では家庭と園での子どもの様子を相互に伝え合うほか、保護者の状況も把握し、家庭への個別の支援に活かしている。入園後は年齢に応じて適宜月数を定め、「あゆみ(成長記録)」で心身の成長を記録しており、面談時に保護者に開示し、成長の喜びを感じ合えるようにしている。		
全体的な計画(保育課程)をもとに、年・月・週日の計画を作成している 全体的な計画(保育課程)、「BBハンドブック」をもとに、今の子どもの姿をとらえて年間指導計画を4期で作成しており、これを月・週日の各計画に展開させている。年度当初には、現在の子どもたちから予想される姿や経験してもらいたいこと、大切にしたい思いを年間テーマとして設け、年度中間・末には子どものエピソードを織り交ぜながら、一人ひとりの様子に対する考察や、テーマ・活動内容等に対する視点を職員間で共有し、さまざまな観点から今の子どもの姿を考察できるような振り返りの会議を行い、子どもの理解につなげている。		
一人ひとりに応じた計画を策定し、保護者に育ちの現状や援助の方針を伝えている 年齢に応じた周期で個別計画を策定しており、一人ひとりの発達課題や特性を細やかにとらえ、集団生活においても個々を尊重した支援に努めている。年度当初の懇談会では、年間を通しての子どもの育ちのねらいや園として大切にしたい子どもとの関わり、行事等について伝えている。年度末の懇談会では、年間の保育の振り返りを報告し、進級・就学への見通しや助言を伝えている。コロナ禍の影響を受けて開催内容の変更も行いつつ、懇談会のほか、「おしゃべりカフェ」「公園で遊ぼう会」等の懇親の場も設け、園と保護者とのつながりを深めている。		

サブカテゴリー5		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー5の講評		
<p>個人情報の適切な取り扱いと、子どもの心情やプライバシーなどへの配慮に努めている</p> <p>法人の個人情報保護方針に、個人情報の取得・利用・第三者提供は同意を得て行うことを定め、ホームページにも同方針を掲載しており、入園時に保護者への説明と同意の確認を行っている。日々の保育では、着替えは外部からの視線が届かない場所で行い、おむつ交換も専用の場所で行うようにするほか、夏季のプール時の幼児の着替えの際は、個別の心情に応じて援助するなど、子どもの心情やプライバシーに配慮した関わりを行っている。また乳児から着替えの手順を知らせ、裸にならないように促すなど、自分の身体を大切に思う心の育みにも努めている。</p> <p>一人ひとりの自尊心を育み、集団の中で自分を表現し、調節する心の育みを目指している</p> <p>子どもたちが自分を大切に思い、「柔らかに開かれた心もち、様々な人と共に生きていける人」に成長できるよう、「保護者とともに子育てをすすめる」ことを保育の目標としている。その実践を目指し、それぞれの子どもの成長を、日々の会議での話し合いやエピソードの伝え合いによって職員間で共有し、保護者とも連携を図りながら、自尊心や自己肯定感を育てている。また子ども同士での協力や摩擦を通じて、自分の思いを人に伝え、相手の気持ちを感じる心を培い、自分の気持ちを調節する力を養えるよう、発達に合わせた集団活動を取り入れている。</p> <p>虐待の防止や早期発見に向け、マニュアルを整備し、関係機関との連携体制を整えている</p> <p>市の「子どもの虐待対応マニュアル」、法人が策定した「BBハンドブック」や「虐待対応マニュアル」などに、虐待の種類や早期発見のポイント、発生時の対応などが記載されており、これらを参考として虐待の予兆を把握するよう努めている。「入園のしおり」の中にも、虐待防止のための措置に関する事項として、園が講じている対策や虐待が疑われる際の通報先を掲載するなど、保護者にも園の取組を伝えていく。また疑いがある場合には、関係機関に速やかに通告する仕組みとするほか、保育会議等において職員間での意見交換や情報共有に努めている。</p>		

サブカテゴリー6		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況
6	事業所業務の標準化	5/5
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー6の講評		
<p>「BBハンドブック」や危機管理に関するマニュアルにより、業務の標準が示されている</p> <p>系列園共通のマニュアル「BBハンドブック」は全職員に配付されており、人と人の関わり、生活の営み、遊びと活動、保護者との関わり、食事作りと食育、地域への子育て支援などについての考え方や留意点が記されている。また地震・火災・自然災害・事故発生・不審者対策・感染症など、危機管理に関するマニュアルを用意しており、基本的な考え方のほか、緊急時の体制や対応、予防への手順等を示している。通報や職員の動きなどに関しては、必要な手順や流れを端的に示したフローチャートも活用している。</p> <p>保育実践に必要な手順の再確認と定着に努めている</p> <p>保育実践において、即時の対応や適宜確認が必要な手順については、その場で確認ができるよう掲示物やプリント等を用意しており、トイレには嘔吐処理に必要な物品とその手順を示したマニュアルをセットにして常置している。そのほか、書面配付により、プール前の熱中症の注意喚起やプールの時の監視の仕方、胃腸炎が流行する時期を見据えての下痢・嘔吐の処理などに関する再確認が行われるほか、心肺蘇生術については、消防庁の動画を用いて学んでいる。また事故報道を受け、登園の有無・人数確認の徹底に関する注意喚起を行っている。</p> <p>マニュアルは適宜変更し、保育水準の維持や安全確保に向けた確認に努めている</p> <p>法人共通のマニュアルは、要綱・通知やガイドラインのほか、事故報道などをもとに、法人が改正することとなっており、園独自の基準は必要に応じて改善するようにしている。BBハンドブックの改正時には、改正部分を配付して差し替えることとなっている。保育水準の維持や安全の確保に向け、年度当初に同ハンドブックを読み合わせるほか、日常の保育において、職員が必要を感じた場合にも適宜確認している。またクラス会議では、保育の振り返りの一部としてヒヤリハット事例を共有しており、事故の発生防止に努めている。</p>		

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35 / 35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	<input type="radio"/> 非該当	
評価項目1の講評			
<p>子どもの多面的な姿をとらえて、日々の保育が積み重ねられている</p> <p>園全体及び各クラスにおける適宜の会議では、子どもの様子や保護者からの伝達事項を共有している。また会議以外でも、子どもの活動に取り組む姿やつぶやき等を保育者同士で常時伝え合い、一人ひとりの成長に喜びや驚き、子どもから発信される思いや創造を尊重することで、子どもの多面的な姿をとらえる中で日々の生活が紡がれている。各保育室は発達や興味をとらえた玩具や教具、四季折々の自然物を交えた子どもの作品が飾られており、子ども同士が相互に関わりながら遊びを深めるとともに、子どもが中心となった環境づくりが行われている。</p> <p>子どもが主体的に活動を選択できる取組や、異年齢で育ち合える環境を整えている</p> <p>年長児の部屋には月の予定を記入するホワイトボードがあり、子どもたちとともに予定を組み立てながら活動の見通しを共有している。3・4歳児は異年齢で過ごしており、活動内容等に応じて学年別にも柔軟に活動を設けている。幼児は散歩・園庭・室内と選択できる日もあり、子どもが自発的に活動を選択することで、遊びの欲求が満たされるとともに、遊びをともにする仲間たちとの関係性の広がりにもつながっている。一日を過ごす中で、子ども同士が行き交うことが自然な流れの中、年上の子の姿からの学びや年下の子をいたわる姿が見られている。</p> <p>配慮が必要な子どもへの支援や、5歳児の就学に向けた小学校との連携がなされている</p> <p>配慮が必要な子どもは専門機関との連携を図り、園での過ごし方や連携機関での支援方法を伝え合い、専門的な助言を得て日々の支援につなげている。保護者とは「子育てノート(連絡帳)」や口頭で子どもの姿について共有し合い、園と家庭での様子について連携を図っている。また個別の支援とともに集団での関わりも大切に考え、集団の中での姿を見守りながら、子どもが無理なく過ごせるよう配慮を行っている。5歳児は小学校を訪問して1年生と交流したり、併設の学童施設に遊びに行く機会も設けられるなど、就学に向けた小学校との連携もなされている。</p>			

2 評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2の講評		
<p>送迎時は保護者と子どもの様子を伝え合うとともに、アプリの活用も行われている</p> <p>登園時は受け入れ担当が口頭で子どもの様子を聴き取るとともに、「子育てノート(連絡帳)」から健康状態などを確認している。家庭の様子は専用アプリに入力をしてもらおう仕組みとしており、アプリ内の内容でも再度確認をしている。子どもの変化や保護者からの伝達事項は各クラスのノートに記載し、共有を図っている。園での一日の様子は、「壁新聞」の掲示や写真と文章を掲載したアプリでの配信のほか、子育てノートでは子どもの年齢に応じて保護者と情報をやり取りしている。これらとともに、可能な限り口頭で伝えることも大切にして取り組んでいる。</p> <p>子どもの意欲や発達に応じ、自立に向けた援助が行われている</p> <p>外遊び時には帽子をかぶり靴を履く、また気候に応じて上着を着用するなどの習慣が身につけられており、子どもが自分で行おうとする意欲を尊重した関わりが行われている。子どもの生活動線が考えられた部屋では、手洗いやトイレ、身支度など子どもが生活の見通しをつけやすくできる環境設定としており、自分の場所やものがわかるよう、棚や靴箱に個人別のマークをつけて、子どもが出し入れしやすいようにしている。保育者は身の回りのことを自分でしようとする姿を見守るなど、子どもの心情や意欲に寄り添った関わりを大切にしている。</p> <p>一人ひとりの生活リズムに配慮した睡眠や、生活習慣の自立の支援が行われている</p> <p>排せつは個々の排せつ間隔を把握して、活動の合間を見てトイレに誘い、トイレで排せつする習慣がつくようにしている。子どもがトイレに興味を持てるように、乳児のトイレには子どもたちの好きな写真が貼られている。成功体験を重ねる姿が見られたら、家庭と連携を取り合い、パンツへの移行を無理なく進めるようにしている。長時間を過ごす子どもたちが身体を休める時間として、食後に午睡時間を設け、安全に休めるように年齢に応じて適宜、呼吸・体位等の確認・記録を行っている。また室内は採光調整や温度・湿度の管理もなされている。</p>		

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○非該当
●あり ○なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○非該当
●あり ○なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○非該当
●あり ○なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○非該当
●あり ○なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○非該当
評価項目3の講評		
<p>子どもから発信された思いや内容をつなげて、日々の暮らしを豊かに重ねている</p> <p>子どもとの対話を通して、子どもと大人が対等な関係性を持ち、対話を重ねて活動が展開されるなど、園での生活や遊びを子どもが主体となって組み立てている。年長児のお泊まり会「だるまじゃナイト」では、子どもから寄せられた思いに対して、保育者は子ども同士で思いを出し合い、一つ一つ組み立てながら共通のイメージを持ち、さらに期待感が高められるような働きかけに努めている。日々の暮らしも子どもたちと作ることを大切に考え、子どもから発信された内容を形にしたり、思いをつなげて活動や生活が豊かに重ねられるようにしている。</p> <p>一人ひとりの子どもが満足感を抱けるような関わりが行われている</p> <p>日々安定した日課(日々の生活)を送り、子ども自身が次の活動への見通しを持てるようにしている。子どもの発達に合わせた言葉かけや日常のふれ合いを大切に、保育者は一人ひとりの子どもが満足感を抱けるよう、ゆったりと関わることを大切にしている。園内は季節が感じられる素材や作品が掲示され、さまざまな素材に親しみ、表現を楽しんでいる姿がうかがえる。園舎内外での暮らしの中で異年齢で関わる姿も見られ、年上の子から遊びが引き継がれ、遊びを通して幅広い年齢・月齢の小グループができ、子ども同士での多様な経験につながられている。</p> <p>園外活動を通して自然と季節の移り変わりを感じ、興味・関心を広げている</p> <p>周辺環境を活用して積極的に園外に出かけており、公園等で身体を動かしたり、季節ごとの植物や昆虫などを探索するとともに、散歩での道中には地域の人々との挨拶を交わしたりして、関わりが持てるようにしている。散歩先は子どもの興味や季節に応じて選択したり、幼児では子どもと相談して決めたりするなど、子どもの自主性を尊重して活動を行っている。年長児は近隣の川で「ガサガサ体験(水中探索)」を行い、生態系に詳しい専門家の方から助言を受けながら水中の生物について興味を持ち、探索活動を行っている。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	<input type="radio"/> 非該当
評価項目4の講評		
<p>子ども・保護者・園が楽しみながら親睦を深められる行事が行われている</p> <p>「おやこであそびDAY」は子どもたちが日頃から遊び込んでいる遊びを親子で楽しんでもらう行事として行い、親子・保護者同士の親睦が深められる内容としている。乳児は同日に園内でわらべ歌やふれ合い遊びを楽しみ、コロナ禍で行事が制限される中、安全対策に配慮しながら開催している。「いなほDAY」では、子どもが日頃味わう米や野菜・果物等の販売や、子どもたちが生産者の方に手紙を送る取組などを通じて、食への興味や関心を広げ、感謝の気持ちにつながる取組を行っており、例年は生産者との交流や保護者への食事の提供も行っている。</p> <p>行事の取組を通して、子どもの自信や満足感が得られている</p> <p>子どもが主体的に行事に関わっており、夏祭りでは屋台のおやつについて子どもたちと話し合い、子どもたちから出た意見を組み立てながらイメージの共有につなげ、保育者は適宜助言を行いながら、子どもが中心となって開催している。年長児のお泊まり会「だるまじゃナイト」でも子どもからの意見を聴き取り、遊び・食事・夜の過ごし方など、場面ごとに想定しながら子どもたちの思いを形にしている。晩ご飯のカレー作りでは家庭の味を参考にするため、保護者にレシピの紹介をってもらう機会を作るなど、親子とともに行事を作り上げる期待感も高めている。</p> <p>四季を感じ、身体を存分に動かせるような園外行事が行われている</p> <p>幼児は公共交通機関を使って園外保育に出かけており、3・4歳児はお弁当を持って遠くの公園に赴き、5歳児は高尾山で自然を身近に感じながら登山道を登り切るなど、野外でのさまざまな体験をしている。行き先は子どもたちの声を踏まえて選定し、当日に向けて保育者と交通ルールや公共のマナーについて話し合ったり、家庭で保護者と一緒に準備をするなど、期待や見通しを持ちながら取り組んでいる。これらを含め、各種行事の取組の過程はクラス便りや「壁新聞」、専用アプリで保護者に発信し、行事を通じた子どもたちの成長を家庭とも共有している。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○非該当
評価項目5の講評		
<p>くつろげる環境づくりに配慮し、子ども同士遊びを通じて関わりが深まるようにしている</p> <p>一日を通して、子どもがゆったりと健康的に過ごせる環境や時間への配慮を行っている。各室に畳やソファ・マットなどを置き、年齢に応じてくつろげるスペースを設けるほか、一人で落ち着いて過ごせる空間や、絵本コーナー等の共用スペースなど、子どもの気持ちやその日の活動などに応じて活用できる環境を整えている。またアタッチメント(愛着形成)に配慮し、保護者手作りの「わたしの絵本」「わたしの人形」を部屋に置き、寂しくなった時の心のよりどころとしたり、友達と一緒に手作り絵本を見たり、人形でごっこ遊びをする姿なども見られている。</p> <p>朝夕の時間帯や延長保育時などでも、それぞれに応じた配慮に努めている</p> <p>保育形態が変化する中でも工夫をし、保護者のお迎えまでを安心して過ごせるように配慮している。午後のおやつ後は園庭やホール、各部屋の行き来をして気分転換をしたり、異年齢の子ども同士で遊びや関係性を広めている。朝夕の保育において、人数や時間帯などに応じて合同となる中でも、それぞれの子どもが落ち着いて過ごせるようにしている。少人数で遊べるものやその時ならではの玩具を準備したり、子どもの好きな玩具や遊びを聴いて、それに合わせて提供するなど、いつもと違った遊びを楽しみにしたり、じっくりと遊び込めるよう工夫をしている。</p>		

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○非該当
評価項目6の講評		
<p>旬の食材等を用いた献立を、意欲的においしく食べられる環境や提供の工夫に努めている</p> <p>旬の食材を活用した2週間サイクルの献立は、和食を基本に洋風・中華風も加えたバラエティーのある内容とし、子どもの食べ具合を栄養士が見て、次の提供時の調理の工夫に反映させている。また午後のおやつはピザやご飯系、芋類などの腹持ちのよいものとするなど、長時間の園での生活に配慮している。配膳は温かいものを温かいまま提供できるよう、鍋やおひつから子どもの目の前で行い、量の調節も子どもから聴き取るなど、家庭的な雰囲気にも配慮し、食への親しみや意欲が高まるよう、食材などの生産者・提供者も子どもや保護者に紹介している。</p> <p>安全に配慮した食物アレルギー対応や、離乳食提供への対応と配慮に努めている</p> <p>アレルギー対応は入園時に個別に状態と必要な配慮を把握し、医師の指示書をもとに除去・代替食を用意しており、日常の提供時には担任と調理室が提供内容を確認し、専用のトレー・皿を使用し、ラップをかけて名前と除去内容を記入するなど、誤配防止に努めている。離乳食は面談で形状を把握し、提供初日は月齢に合った形状のものと面談時で確認をした形状の両方を用意して、保護者と一緒に食べ具合を見てもらい、子どもに合った形状で進めるようにしている。段階が上がる時には、担任・栄養士・保護者との連携のもと、無理なく進めるようにしている。</p> <p>日常生活の中で食を身近に感じ、季節を感じ取れるような取組を行っている</p> <p>食育は日常生活の中で自然と食材を感じることを大切に考え、食材を見て・触れ・匂いを感じ、味わうことを生活の中に織り交ぜて、季節を感じ取れるような取組を行っている。子どもが楽しく食べること、食に対して意欲を持てることを大切にして、子どもが食材や調理に関心を持つように努めている。日々の食材を活用して野菜の皮むきやさや取りなどは日常的に行われており、梅林の梅を活用してシロップを作ったり、中庭にたくあんや干し柿を吊るしたり、屋上では種から植えて野菜を育て、調理保育を行うなど、食につながるさまざまな活動を行っている。</p>		

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	○非該当
評価項目7の講評		
<p>衛生や身体への意識を育み、所作の定着を促す保健指導が日々の保育の中で行われている</p> <p>子どもの清潔や衛生に関する意識を育めるよう、おむつ替えや口拭きなどの援助の際には、清潔の心地よさを言葉にして伝えるようにしている。手洗いや咳エチケットのほか、鼻のかみ方や排便後の処理、水分補給など、基本的な生活習慣の所作についても、日常の保育の中で、個別に対応したり、保育者や看護師が見かけるたびに声かけや問いかけを行ったりして、定着を促している。また今年度はプライベートゾーンに関する話を通じて、自分や自分の身体、友だちの気持ちや身体を尊重することの大切さを、具体的な事例などを用いて教えている。</p> <p>子どもたちが自分の身を守るための意識を育み、知識を伝えている</p> <p>子どもたちが危険への意識を持って、自ら危険を察知したり、回避したりする力を育めるよう、日々の保育の中で、危ない状況が見られた際には、声かけや問いかけを行っている。保育室内での危険や道具の使い方のほか、園庭の決まりなどについては、年度当初や、遊びが変わる季節の節目などに、子どもたちと確認する時間を設けるなどして、注意を促している。また園外に散歩に出かける際には、交通ルールや公園内での危険について伝えており、毎月の避難訓練においても、自分の身を守るために必要となる行動や姿勢を教え、緊急時に備えている。</p> <p>子どもの健康維持・向上のための対策や、保護者・嘱託医との連携に努めている</p> <p>登園時の視診の情報を職員間で共有し、午睡前に検温を実施するなどして、体調の変化に気づけるよう努めるほか、適時の水分補給・睡眠時の呼吸等の確認・猛暑時の外出の自粛、施設内各所の消毒や室温湿度の管理、換気など、さまざまな対策を講じている。また看護師は保育室を巡回して子どもの状態の確認に努めている。感染症が発生した場合には情報を保護者に発信するほか、保健便りを発行して健康や身体に関する情報を提供している。嘱託医による健診が行われるほか、医療情報の提供や相談に応じてもらうなど、連携体制を整えている。</p>		

8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(00000)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目8の講評		
<p>子どもや保護者の状況を把握し、個々の状況に応じた援助に努めている</p> <p>入園時の面談や各種書類によって、子どもの発達や健康の状態のほか、保護者の就労事情や家庭の状況等の情報を把握しており、保護者の育児に対する考え方や要望などについても聴き取り、園でできる限りの対応ができるよう努めている。園での薬の預かりは基本的には行っていないが、医師の診断書や指示書をもとに、服薬の介助や慢性的なケアが必要な塗り薬の塗布などには対応し、就労事情や公共交通機関の遅延、通院などの理由で、保育時間や利用日に変更がある場合には、延長保育のスポット利用等、柔軟な対応に努めている。</p> <p>保護者との信頼関係を築き、安心して保育園を利用するための取組を行っている</p> <p>子どもが園での生活を楽しめていること、保護者に園生活の様子がよく見えていることや、保育者への親しみと信頼が持てること、これらを保護者が安心して園を利用するうえで必要なこととする考えに基づき、さまざまな取組を行っている。子どもの様子を定期的に振り返り、全職員で共有する仕組みを設け、一人ひとりの状況に応じた援助に努めるほか、子どもの園での様子や保育内容を保護者に伝え、保護者との信頼関係を深めるため、日々の送迎時の対話のほか、クラス懇談会や保育参加・個人面談、クラス便り等の発行などを実施している。</p> <p>保護者同士や保護者と保育者の交流の機会がさまざまに設けられている</p> <p>懇談会のほか、幼児クラスでは親子で一緒に楽しむ「公園で遊ぼうの日」を実施し、個人面談の際には部屋を開放するなど、保護者同士の親睦の機会を設けている。また「子育てノート(連絡帳)」に保護者が記入した子どものエピソードについて、保護者の許可を得てお便りに掲載したり、0歳児室には子どもの好きなことを掲示するなど、成長や子育ての喜びを共有できるようにしている。園庭や花壇のメンテナンス等を行う「ワークショップ」は、保育者・保護者が子どものために汗を流し、協力して取り組む親睦の機会となっている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○非該当
●あり ○なし	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当
評価項目9の講評		
<p>職員以外の大人との関わりを通じて、子どもが多様な体験ができる機会が設けられている</p> <p>年長児の保育参加では、例年保護者の提案を活かした趣向が凝らされており、建築関係の仕事に就いている保護者がブロックや積み木を使って街づくりをガイドしたり、助産師が命の話をしたりするほか、消防士による避難訓練のレクチャー、関西出身の保護者による関西弁の絵本の読み聞かせなど、子どもたちが社会のさまざまな仕事や文化に触れられるようにしている。また外部講師の方を招いて行う川遊び、元職員による藍染やたくあん作り、東北弁での昔ばなしなど、職員以外の大人との関わりを通じて、子どもが多様な体験ができる機会が設けられている。</p> <p>地域資源を活用して、子どもが多様な体験ができる機会を設けている</p> <p>地域資源を活用して、多様な体験ができる機会を設けている。地域の方と出会った時には、子どもにも挨拶の習慣が自然につくよう、積極的に大人が挨拶するよう意識するほか、年長児は交通公園に出かけ、交通ルールを学んでいる。また外部講師とともに近所の川に出かけて「ガサガサ体験(網を使って川の中の生き物を採取する)」を楽しんでおり、雨天時には、スライドで川の生き物や山の生き物の紹介や生態の話を聴いている。野菜の苗や年長児のお泊まり保育の際のカレーの材料を、子どもたちが近所の商店に買いに出かける取組もなされている。</p>		

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル①	保護者と協同して子育てをすすめることを保育の理念に掲げ、多様な取組を行っている	
内容①	<p>保育園を保護者との協同の場ととらえ、保育の理念に「保護者とともに子育てをすすめる」を掲げ、保護者との信頼関係を深める多様な取組を行っている。送迎時の対話に加え、保育の様子を写真とコメントで伝える「ドキュメンテーション」の掲示により、日々の子どもの姿を保護者に伝えるとともに、懇談会・個人面談・保育参加など、子どもの成長の姿のほか、子育ての悩みや喜びを共有する機会を設けている。また園庭や花壇のメンテナンス等を行う「ワークショップ」は、保育者・保護者が子どものために汗を流し、協力して取り組むイベントとなっている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル②	子どもたちの自己肯定や自己表出の心、社会性を育む保育実践に注力している	
内容②	<p>一人ひとりの尊重に加え、個々が集まり形成される社会の中で、仲間を尊重する心の成長を促す保育実践に注力している。3・4歳児のテーマを「自分の暮らしをデザインする」と定め、それぞれが自分のやりたいことにこだわって活動できる環境の保障や、保育内容の展開に努めることで、自己肯定や自己表出の心を育てている。また5歳児では「自分たちの暮らし」に焦点を当て、自分に好きなことがあるように、友達にも好きなことがあることを知り、その実現のために仲間同士で考えたり、話し合ったりする経験を重ねながら、社会性を育む一年としている。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	5-2-1	組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる
タイトル③	園の保育と組織の連帯の基盤となる、職員の語らいと共感の場をさまざまに設けている	
内容③	<p>毎年の中間・期末に行う組織全体での振り返りでは、子どもたちの育ちの姿に焦点を当て、各クラスで記述するエピソードと、それぞれに対する各人の感想や、期末の各クラス・部署の振り返りを、参加の全職員で共有し、席上では各担当からの発表とそれを踏まえた話し合いを行っている。職員の経験や職種の別を問わず、共感と各人の思索を深めるこの営みに加え、毎月の会議でもエピソードを共有するほか、新任者・中堅層を対象に互いを知り、交流を深める機会も設けるなど、コロナ禍で失われがちな職員の語らいと相互理解の機会の充実を図っている。</p>	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日々の暮らしの中で子どもとの対話を重ねることで子どもの能動的な姿を導き出し、自分の思いや気持ちを表現できるようにしている
	内容	子どもの主体性を尊重した保育実践に努めており、乳児は子どもの行動や言動から欲求を汲み取り、時に代弁をすることで、子どもの思いを尊重する保育を行っている。幼児では子どもとの対話を通して能動的な姿を導き出し、大人も関わりながら子どものイメージを具体化させていく援助を行い、実体験を重ねてそれぞれの満足感が得られるようにしている。園内の環境は季節感のある飾りつけや子どもの作品の展示が随所になされ、家庭的な雰囲気を大切にしており、木の温かみを感じられるような玩具や素材等を準備し、個別・小集団での遊びを保障している。
2	タイトル	日々の食事では安全性にも配慮し、家庭的な雰囲気や提供時間・配膳方法の工夫から、子どもが意欲的に味わえるようにしている
	内容	日々の献立は、信頼関係が構築された生産者から調達する食材を活用し、季節感や食べ慣れた味つけに配慮し、見た目からも味が思い浮かぶような、家庭的な食事の提供に努めている。また子どものお腹の空くタイミングを把握し、目の前での配膳によっておいしさへの期待や意欲を高めるなど、日常の暮らしに根差した、丁寧かつ「当たり前」の営みを大切にしている。保護者にも子どもたちが園で毎日食しているものを知ってもらうため、コロナ禍以前は「いなほまつり」として、園のメニューを味わい、購入もできる機会を設けており、再開を目指している。
3	タイトル	行事を通して保護者との信頼関係や協力のもと、親子で楽しめる内容や子どもが主体的に取り組む、仲間と喜びを感じられる機会となっている
	内容	行事の取組は、子どもたちの主体性と能動的な関わりを大切に進められている。「おやこであそびDAY」は親子でふれ合いながらともに楽しみ、「ワークショップ」では有志の保護者が手伝いに加わるなど、子どもを中心に、保護者との相互の信頼や協力のもとでさまざまな行事を行っている。また年長児のお泊まり保育では、何をどのように過ごすのかの話し合いの場から始められ、子どもたちが興味を持ち、自分たちで話し合い、アイデアを出しながら取り組む過程を保育者が随時援助し、子どもたちが仲間とともに達成する経験と喜びへとつなげている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	日々の保育と子どもの姿を伝える「ドキュメンテーション」の質を高め、園の保育の本質をより深く保護者に発信する工夫を期待したい
	内容	送迎時の対話では、一人ひとりのエピソードを伝えるほか、写真にコメントを付した「ドキュメンテーション」を掲示して保育の様子を伝えるなど、保護者への情報発信に努めている。今後もこれらの活動を継続させるとともに、保護者との共通理解をより深め、確かなものとするため、ドキュメンテーションによる情報発信のさらなる質の充実にも期待が寄せられる。活動内容に加え、実践の意図や背景、活動の先の見通しなども含めた、連続性や科学性も意識した発信とすることで、園が実践する保育の本質がより深く保護者に伝わるのではないかと推察される。
2	タイトル	種々の事業停止リスクと身近な事故等について、それぞれに仕組みの機能を高め、安全の向上に活かすことが期待される
	内容	災害に関する事業継続計画(BCP)の整備が前回受審時からの継続課題となっており、現状では「危機管理マニュアル」の一部記載がその代替となるものと考えられる。同様に要請が高まっている感染症等に関する計画と併せ、法人とも連携して検討を進めることが期待される。また子どものケガ等の事故について、軽微なものはヒヤリハットと同じ書式に記録しているが、集計・分類等の定量的な分析を考慮すると、書式を分けることも一案かと思われる。記入負担の軽減にも配慮しつつ、導入済みの保育管理ソフトウェアの活用なども視野に、検討されたい。
3	タイトル	課題とする中・長期計画の作成にあたり、経営層または組織全体の総意を計画に反映させるための、関係職員の参画を促す工夫も期待される
	内容	これも前回受審時からの懸案であるが、法人の「中長期計画大綱」を踏まえ、当園固有の重点課題や目標等を定めた中・長期的な計画の作成を課題としている。今後の作成プロセスとして、経営層または組織全体の総意を計画に反映させるための、関係職員の参画を促す工夫も期待される。中間・期末の振り返りをはじめ、クラス・部署の垣根を越えて関心を持ち合い、話し合う園の文化は、それぞれの職員が近未来の園の姿を考え、その総和を計画として定める営みにも活かされるものと思われる。園の今とこれからを組織として見すえた計画の整備を期待したい。